

日本医学教育評価機構(JACME)  
医学教育分野別評価  
聖マリアンナ医科大学医学部医学科  
**2023(令和5)年度 年次報告書**



2023(令和5)年8月

聖マリアンナ医科大学  
St. Marianna University School of Medicine

**医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学医学部医学科 年次報告書**  
**2023(令和 5)年度**

**医学教育分野別評価の受審 2021(令和 3)年度**  
**受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32**  
**本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.35**

**はじめに**

本学医学部医学科は、2021(令和 3)年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022(令和 4)年 6 月 1 日より 3 年間の期限付認定期間が開始した。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.35 を踏まえ、2023(令和 5)年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2021(令和 3)年 7 月 10 日～2023(令和 5)年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.35 の転記は省略した。

本年次報告書は「年次報告書作成要項」に基づき、2021(令和 3)年 7 月 10 日～2023(令和 5)年 3 月 31 日までの期間内に、「評価報告書(2022 年 3 月 24 日付)」の指摘事項を踏まえ実施した教育活動について報告を行うものである。

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 1. 使命と学修成果

### 1.1 使命

基本的水準: 適合

#### 特記すべき良い点(特色)

なし

特色を発展させるため活動状況

今後の計画

根拠資料

#### 改善のための助言

・使命、ディプロマ・ポリシー、コンピテンス・コンピテンシーの相互関係が教員や学生などに理解されておらず、建学の精神や使命に含まれる内容が、学生や教職員など、教育の関係者に十分に理解しやすいように周知すべきである。

改善状況

改善に向けて当該委員会等において検討している(資料 1-1)。

今後の計画

・今後、「建学の精神」、「学則第 1 条」、「使命(標語)」、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー及びコンピテンス・コンピテンシーがそれぞれどのように関係しているのか、図又は文章を用いて分かりやすく、学生、教職員等の教育の関係者に理解しやすいように周知を行う。

根拠資料

資料 1-1: 医学部・大学院合同自己点検委員会の議事要旨  
(2023(令和 5)年 4 月 12 日開催)

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 1.1 使命

質的向上のための水準:部分的適合

### 特記すべき良い点(特色)

なし

特色を発展させるため活動状況

### 今後の計画

### 根拠資料

### 改善のための示唆

- ・建学の精神や使命に医学研究の達成(科学的探究)が包含されていることを明示することが望まれる。
- ・建学の精神や使命に国際的健康・医療の観点からの到達目標が包含されていることを明示することが望まれる。

### 改善状況

改善に向けて当該委員会等において検討している(資料 1-1)。

### 今後の計画

- ・建学の精神や使命に医学研究の達成(科学的探究)及び国際的健康・医療の観点からの到達目標が包含されていることを、より理解しやすいように注釈等で説明を追記して公表する。

### 根拠資料

資料 1-1:医学部・大学院合同自己点検委員会の議事要旨  
(2023(令和 5)年 4 月 12 日開催)

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由
質的向上のための水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

改善のための示唆
・教員ならびに学生が現行カリキュラムについて自由に討議する仕組みの構築が望まれる。
改善状況
従来、カリキュラム学生委員のカリキュラム委員会への参画は不定期であったが、2021(令和 3)年度 10 月開催のカリキュラム委員会より、学生が同委員会に毎回出席し、現行カリキュラムについて自由に討議できる機会を設けている(資料 1-2)。 また、2018(平成 30)年度より、学年担当委員会主導の下、カリキュラム学生委員とは別のクラス委員の学生(各学年 4 名程度)に対して学生生活に関する意見聴取を行っており、カリキュラム委員会と連携してうえで適宜意見を反映している(資料 1-3)。
今後の計画
学生対象のユニット、シリーズ・実習講義評価アンケートおよび教員対象の同アンケートに対するフィードバックにおいて、現行カリキュラムに対する意見を記入する項目を新たに設け、建設的な意見については、積極的に取り入れる。
根拠資料
資料 1-2:カリキュラム委員会議事録(2021(令和 3)年度第 6 回) 資料 1-3:学年担当委員会の学生意見聴取記録

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 1.3 学修成果

基本的水準:適合

### 特記すべき良い点(特色)

・ 建学の精神や学則第1条に基づき、ディプロマ・ポリシー、およびコンピテンス・コンピテンシーが策定されている。

### 特色を発展させるため活動状況

### 今後の計画

### 根拠資料

### 改善のための助言

・ 使命、ディプロマ・ポリシー、コンピテンス・コンピテンシーの相互関係を明確にし、教員と学生に周知し、理解を求めるべきである。

### 改善状況

改善に向けて当該委員会等において検討している(資料 1-1)。

### 今後の計画

・ 今後、「建学の精神」、「学則第 1 条」、「使命(標語)」、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー及びコンピテンス・コンピテンシーがそれぞれどのように関係しているのか、図又は文章を用いて分かりやすく、学生、教職員等の教育の関係者に理解しやすいように周知を行う。

### 根拠資料

資料 1-1:医学部・大学院合同自己点検委員会の議事要旨  
(2023(令和 5)年 4 月 12 日開催)

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 1.3 学修成果

質的向上のための水準:部分的適合

### 特記すべき良い点(特色)

なし

特色を発展させるため活動状況

今後の計画

根拠資料

### 改善のための示唆

- ・医学研究(科学的探究)の実施や学術活動の推進に関する到達目標をディプロマ・ポリシーやコンピテンス・コンピテンシーに明示することが望まれる。
- ・国際的健康・医療の観点から到達目標をディプロマ・ポリシーやコンピテンス・コンピテンシーに明示することが望まれる。

改善状況

改善に向けて当該委員会等において検討している(資料 1-1)。

今後の計画

・モデル・コア・カリキュラムの改訂に伴い、本学のディプロマ・ポリシー及びコンピテンス・コンピテンシーも見直しを行う必要がある。今後、ディプロマ・ポリシー及びコンピテンス・コンピテンシーの改訂をカリキュラム委員会中心に行い、改訂の際には、医学研究(科学的探究)の実施や学術活動の推進に関する到達目標及び国際的健康・医療の観点から到達目標を明示する。

根拠資料

資料 1-1:医学部・大学院合同自己点検委員会の議事要旨  
(2023(令和 5)年 4 月 12 日開催)

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

改善のための助言
・学修成果の策定には学生も含めた教育に関わる主要な構成者を参画させるべきである。
改善状況
改善に向けて当該委員会等において検討している(資料 1-1)。
今後の計画
・モデル・コア・カリキュラムの改訂に伴う、本学のディプロマ・ポリシー及びコンピテンス・コンピテンシーの改定の際には、学生委員も含めたカリキュラム委員会は勿論、教育に関わる主要な構成者が参画し、議論を行う。
根拠資料
資料 1-1:医学部・大学院合同自己点検委員会の議事要旨 (2023(令和 5)年 4 月 12 日開催)



# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

改善のための示唆
・使命と学修成果の策定には他医療職種、患者代表、地域の代表など、広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。
改善状況
改善に向けて当該委員会等において検討している(資料 1-1)。
今後の計画
・本学のディプロマ・ポリシー及びコンピテンス・コンピテンシーの改定案が出た段階で、広い範囲の教育の関係者に対して、案を配付し意見を求める。
根拠資料
資料 1-1:医学部・大学院合同自己点検委員会の議事要旨 (2023(令和 5)年 4 月 12 日開催)

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 2.教育プログラム

### 2.1 教育プログラムの構成

基本的水準:適合

#### 特記すべき良い点(特色)

- ・ブロック講義およびシリーズ講義・実習を主体としたカリキュラムが設定されている。
- ・学修意欲を刺激するために、ブロック講義終了時に TBL を実施していることは高く評価できる。
- ・臨床推論の学修のために e-PBL を実施していることは評価できる。

#### 特色を発展させるため活動状況

COVID19 対応のため、対面によるブロック TBL の実施が困難であったが、2021(令和3)年度に通信環境を整備し、ZOOMを用いたオンライン形式でブロック TBL(資料2-1)実施の継続を図った。

#### 今後の計画

2023(令和5)年度からは原則ブロック TBL も対面で再開することになるが、ディスカッションの際、資料を共有しやすく、成果物の管理がしやすいという利点があることから、希望する場合はオンライン形式による実施を認め、教員・学生にとってより良い方策を模索していく。

#### 根拠資料

資料2-1:オンラインブロック TBL 実施方法

#### 改善のための助言

なし

#### 改善状況

#### 今後の計画

#### 根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

2.1 教育プログラムの構成
質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)
・ 全学生が教員や先輩医師に2日間同行し、将来のキャリアについて情報収集し考察するキャリアインタビューは評価できる。
特色を発展させるため活動状況
低学年時のキャリアインタビューが動機となり、第4学年研究室配属コースの配属先を決定する等の報告を受けていることから、カリキュラム委員会で検討し、入学時から研究に興味のある学生向けの通知(資料2-2)を実施している。
今後の計画
研究室配属コースだけでなく、実践医学等のカリキュラムとも連動し、科目間の縦軸の連携を厚くしていきたい。
根拠資料
資料2-2:低学年向け研究室配属通知

改善のための示唆
なし
改善状況
今後の計画
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

2.2 科学的方法
基本的水準:適合

特記すべき良い点(特色)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4週間の研究室配属で研究活動を経験している。</li> <li>・ 臨床実習の現場において、学生が課題を見出した時に UpToDate®などを使用して EBM を実践している。</li> </ul>
特色を発展させるため活動状況
正規のカリキュラムではないが、入学時から研究に興味のある学生向けの通知(資料 2-2)やアンケートを実施している。
今後の計画
EBMについて状況調査を行い、各科で推進できるようなプログラムとしたい。
根拠資料
資料 2-2:低学年向け研究室配属通知

改善のための助言
なし
改善状況
今後の計画
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

2.3 基礎医学
質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)
・ 第1学年から第4学年まで「実践医学」などの講義で、現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを教育している。
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
学生委員からの意見をもとに適宜、内容を精査する。また、全ての講義についてレポートの作成を課しているが、学生の興味ある分野に集中させ、より内容の深い成果物を作成させることも検討している。
根拠資料

改善のための示唆
なし
改善状況
今後の計画
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)
・ 建学の精神にある「キリスト教的人類愛に根ざした『生命の尊厳』」に直接関係する必修科目「宗教学」にて、医療倫理学的要素を包含した教育が行われていることは高く評価できる。
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

改善のための助言
・体系的に行動科学・医療倫理学を教育すべきである。
改善状況
2022(令和 4)年度より医療倫理講義責任者を緩和医療学講座代表である教員に変更(資料 2-3)し、より体系的な教育体制を整えている。
今後の計画
2023(令和 5)年度より担当する分野を設置することが決定しており、学内外から行動科学・医療倫理学の専門家を募る予定である。
根拠資料
資料 2-3:2022(令和 4)年度医療倫理シラバス

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

2.5 臨床医学と技能
基本的水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)
・ 臨床実習において、学生は患者を担当し、カルテ記載を含めた医療への参加が実践されている。
特色を発展させるため活動状況
大学病院の新入院棟が開院し、新たな電子カルテシステム(BEST Care2.0)を導入しており、学生も利用できるよう講習を行っている。
今後の計画
学生向け機能を充実していくため、適宜改修予定である。
根拠資料

改善のための助言
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重要な診療科での実習期間を十分に確保し、卒業後に適切な医療的責務を果たせるように十分な知識、臨床技能、医療専門職としての態度を修得させるべきである。</li> <li>・ 患者安全に配慮するために、臨床実習前の学生の健康診断の再検査を徹底すべきである。</li> </ul>
改善状況
2023(令和5)年臨床実習より、これまで2週間担当されていた神経精神科学臨床実習を4週間とした(資料2-4)。また、健康診断の再検査も、検査数値や所見に対する受診の必要性を段階的に表記することにより、再検査対象者の受診意欲の向上を図った(資料2-5)。
今後の計画
スチューデントドクターをスタッフの一員として臨床実習に参加させるよう指導医の意識改革を行っていきたい。また、健康診断の再検査もオリエンテーションにおいて、健康診断の重要性について周知し、実施後においては再検査の指導を積極的に行う。
根拠資料
資料2-4:2023(令和5)年度臨床実習ローテーション表(第2クール)
資料2-5:健康診断再検査結果

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)
・ 建学の精神にある「キリスト教的人類愛に根ざした『生命の尊厳』を基調とする医師」の育成を具現化するカリキュラムとして、ライフサイクルに沿ったかたちで1～3年次において段階的に実施される早期体験実習は高く評価できる。
特色を発展させるため活動状況
実習施設を訪問し、意見交換することで実習内容の見直しを行っている(資料 2-6)。
今後の計画
施設からのアンケートを基に適宜、実習内容の見直しを図りたい。
根拠資料
資料 2-6: 早期体験実習施設訪問記録

改善のための示唆
なし
改善状況
今後の計画
根拠資料



# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間
基本的水準:適合

特記すべき良い点(特色)
・カリキュラムの構成要素を適切に配置している。
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
モデルコアカリキュラム(2022(令和4)年度改定版)との整合性を確認し、試験回数や時期等の評価を中心にカリキュラムを見直していく。
根拠資料

改善のための助言
なし
改善状況
今後の計画
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)
・「実践医学」、ブロック講義、シリーズ講義・実習において水平的統合、垂直的統合が実施されている。
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

改善のための示唆
・基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合をさらに推進することが望まれる。
改善状況
今後の計画
アンケートを実施し、令和4年度改定版モデルコアカリキュラムに合わせたカリキュラム編成の際、改めて垂直的統合の内容について具体化し、改善事項の推進を実施する予定である。
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

2.7 教育プログラム管理
基本的水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

改善のための助言
・2016(平成 28)年の新カリキュラム策定以来、カリキュラムの立案と改善を担当する委員会が実質的に活動しておらず、これらの業務に責任を持つ委員会を実質化すべきである。
改善状況
企画委員会は 2016(平成 28)年から開始された新カリキュラムについて確認するために作られた委員会であり、特にカリキュラム運用に問題が無ければ開催される委員会ではなく、近年ではカリキュラム立案・改善はカリキュラム委員会が担当し、第 1 学年オリエンテーションを審議するだけの委員会であった。そのため企画委員会は名称を初年次教育検討部会に改めた(資料 2-7)。
今後の計画
根拠資料
資料 2-7:2022(令和 4)年度委員会一覧

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

2.7 教育プログラム管理
質的向上のための水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

改善のための示唆
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの立案や改善を実施する委員会を実質化し、教育カリキュラムのさらなる改善につなげることが望まれる。</li> <li>・カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。</li> </ul>
改善状況
<p>企画委員会は 2016(平成 28)年から開始された新カリキュラムについて確認するために作られた委員会であり、特にカリキュラム運用に問題が無ければ開催される委員会ではなく、近年ではカリキュラム立案・改善はカリキュラム委員会が担当し、第 1 学年オリエンテーションを審議するだけの委員会であった。そのため企画委員会は名称を初年次教育検討部会に改めた(資料 2-7)。</p>
今後の計画
根拠資料
資料 2-7:2022(令和 4)年度委員会一覧

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

2.8 臨床実践と医療制度の連携
基本的水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

改善のための助言
・卒前教育と卒後教育(臨床研修、専門医教育、生涯教育)との連携を図る組織を構築し、シームレスな医学教育を推進すべきである。
改善状況
カリキュラム委員会に臨床研修センター長が参加することで、卒後教育に必要な要素を共有している(資料 2-8)。
今後の計画
2023(令和 5)年1月より医学部で CC-EPOC 導入を開始しており、その際の情報のフィードバックを臨床研修側に実施する予定である。
根拠資料
資料 2-8:カリキュラム委員会委員名簿

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

改善のための示唆
・卒業生が将来働く医療機関や地域からの情報を得て、カリキュラム改善に反映させることが望まれる。
改善状況
総合診療内科学外施設実習の実習先施設長とオンラインでヒアリングを実施し、その場で意見をいただき、次年度カリキュラムについての説明を実施している(資料 2-9)。
今後の計画
早期体験実習等でお世話になっている学外施設に対して、アンケートだけでなく実習後のヒアリングを行えるよう検討していきたい。
根拠資料
資料 2-9:総合診療内科学外施設とのヒアリング記録

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 3. 学生の評価

3.1 評価方法
基本的水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)
・ ルーブリック評価、電子ポートフォリオ評価など、様々な評価方法を取り入れて学生の評価を行っている。
特色を発展させるため活動状況
本学では、臨床実習の評価ツールとして 2018(平成 30)年度より本学が独自に開発した e-ポートフォリオ (MEPS: Marianna e-Portfolio Sysytem) を運用してきたが、全国医学部長病院長会議の開発した卒後臨床研修の EPOC (EPOC2) を研修医の約 90% が使用していること、卒前臨床実習の EPOC が 2021(令和 3)年から導入され全国の医学部での導入が進んでいることから、本学でも 2023(令和 5)年 1 月から、新たに臨床実習が開始となる第 4 学年と既に臨床実習を行っている第 5 学年の双方で CC-EPOC を導入した(資料 3-1、3-2)。
今後の計画
導入した CC-EPOC の運用状況を定期的に把握し、学生と教員双方での活用状況を確認する。そして、卒前卒後におけるシームレスな評価ツールとして EPOC を運用するべく、卒後の臨床研修においても 2023(令和 5)年 4 月から PG-EPOC (Post Graduate-EPOC) を導入し運用を開始する。
根拠資料
資料 3-1: CC-EPOC 説明用資料(学生用) 資料 3-2: CC-EPOC 説明用資料(教員用)

改善のための助言
・客観的な態度評価の基準と方法を定め、学生を評価すべきである。 ・試験およびその評価に利益相反の規程を作るべきである。 ・すべての評価が当事者以外の専門家によって精密に吟味されるべきである。
改善状況
・本学医学生の態度領域の成長を客観的に評価するため、2022(令和 4)年度から(株)ベネッセ i-キャリアが提供する GPS-Academic を導入した。この GPS - Academic は、「思考力」「姿勢・態度」「経験」という 3 つの観点で「問題を解決

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

する力」を測定するもので、学生の課題解決力や大学教育への考えを多面的に分析する。本学では第1学年と第4学年とに実施し、経年的な態度領域の成長を測定する方針である。結果は学生自身にもフィードバックされる（資料3-3）。

・各学年の全科目について、科目担当者会議及び卒業判定会議で学生の評価について審議している。当該学年に担当された教育責任者が一堂に会して審議が行われることによって、各学生を科目横断的に吟味する環境となっている（資料3-4）。

## 今後の計画

・GPS-Academic は、2022（令和4）年度については第4学年の実施のみであったが、2023（令和5）年度からが第1、第4学年で実施し、その後は継続的に実施していくことから各学生個人の成長が経時的に客観的に比較可能となる予定である。

・試験およびその評価に関する利益相反の規程については、本学学生に子女が存在する教員が科目担当者会議に出席することを禁止する制度は継続しつつ、教員の利益相反を防止する規程の作成に着手する。

## 根拠資料

資料3-3:GPS-Academic 説明書

資料3-4:GPS-Academic フィードバック事例



# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

3.1 評価方法
質的向上のための水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)
・TBL の評価法として Script Concordance Test を取り入れていることは評価できる。
特色を発展させるため活動状況
なし
今後の計画
・Script Concordance Test は、TBL 中でのディスカッションのツールとして活用しており、臨床推論の過程で用いるのに有用である。現在は一部の臨床系科目の TBL に取り入れられているが、利用する科目を増やしていく。
根拠資料

改善のための示唆
<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての評価について信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。</li> <li>・Mini-CEX やポートフォリオ評価をさらに活用し、360 度評価を実施することが望まれる。</li> <li>・外部評価者の活用をさらに進めることが望まれる。</li> </ul>
改善状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 6 学年の総合試験について教学 IR センターにて解析し、2014（平成 26）年度以降の得点の平均値は一定しており、2022（令和 4）年度教学 IR センター活動報告書で報告した（資料 3-5）。</li> <li>・臨床実習における Mini-CEX、ポートフォリオの活用については、2022（令和 4）年 1 月から CC-EPOC を導入し、利用促進を図った。</li> </ul>
今後の計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習における 360 度評価については、CC-EPOC の導入後、コメディカルへの説明会等を開催した上で、実施を進めていく。</li> <li>・コロナ禍で開催が中止となっていた外部評価者への教育に関する FD を再開し、本邦の医学教育の現状と本学の教育について周知を図る。</li> </ul>
根拠資料
資料 3-5：2022（令和 4）年度教学 IR センター活動報告書

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 3.2 評価と学修との関連

基本的水準:部分的適合

### 特記すべき良い点(特色)

・「ブロック TBL」において、学生の形成的評価を行い、学修意欲を促進していることは評価できる。

### 特色を発展させるため活動状況

・「症候から病態へのアプローチ」では ICT を利用した実践的 PBL (e-PBL) を導入し、学生と教員との ICT 利用を積極的に推進している(資料 3-6)。

### 今後の計画

・今後についても e-PBL は継続して実施し、運用方法については開発を継続していく。

### 根拠資料

資料 3-6:e-PBL 説明書

### 改善のための助言

・目標とする学修成果を学生が達成していることを確実に評価すべきである。

### 改善状況

これまでディプロマポリシーに準じた学年毎のマイルストーンは設定しシラバスに掲載していたが、各科目におけるマイルストーンは設定していなかった。そこで 2022(令和 4)年度に全ユニット・シリーズ科目を対象にマイルストーンを設定し、2023(令和 5)年度のシラバスに掲載した(資料 3-7)。

### 今後の計画

各ユニット・シリーズ科目では、マイルストーンに設定した記載内容で学生の到達度を判定し、進級・卒業判定に活用していく。

### 根拠資料

資料 3-7:第1学年シラバス 各科目マイルストーン例(アカデミックスキルズ)

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 3.2 評価と学修との関連

質的向上のための水準:部分的適合

### 特記すべき良い点(特色)

なし

特色を発展させるため活動状況

今後の計画

根拠資料

### 改善のための示唆

- ・カリキュラム(教育)単位ごとに試験の回数と方法(特性)を適切に定めることが望まれる。
- ・学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。

### 改善状況

- ・カリキュラム委員会に参加する学生委員から現行の試験回数・方法について聞き取りを行った。
- ・各学生個人への評価結果に基づいたフィードバックは、各学生を担当する教員に面談をとおして実施するよう徹底した(資料 3-8)。

今後の計画

- ・総合試験と進級、CBT、卒業、医師国家試験との関連性について教学 IR センターにて解析し、試験回数との関連について解析する。

根拠資料

資料 3-8:カリキュラム委員会 議事録(2022 (令和 4) 年度第 1 回)

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 4. 学生

### 4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準:部分的適合

#### 特記すべき良い点(特色)

なし

#### 特色を発展させるため活動状況

#### 今後の計画

#### 根拠資料

#### 改善のための助言

・2015(平成 27)年～2018(平成 30)年度の一般入学試験第 2 次試験において属性によって合格判定に差異が認められ、2018(平成 30)年 10 月の文部科学省による「医学部医学科の入学者選抜における公正確保に係る緊急調査」から「不適切である可能性が高い事案」と 2018(平成 30)年 12 月に指摘された。さらに第三者委員会、大学基準協会からも不適切であった可能性が高いとの指摘を受けている。これらの指摘に対して大学からは合理的な説明がなされておらず、入学者選抜という大学教育にとって極めて重要な事項に対する疑義について、大学として十分な合理的説明責任を果たし、一刻も早く社会からの信頼を回復させて、入学者選抜を実施すべきである。

・入学者選抜の質を高めるために、選抜方法の見直し、面接試験による人物評価のあり方等について、教員能力開発(FD)などを通じて、医学部教職員が十分に議論し、より適正な選抜法を実施すべきである。なお、監事監査や第三者委員会等の提言を受け入れ入試委員会体制を整え、2019(令和元)年度の入学者選抜では公平性が保たれていると文部科学省によって確認された。

・入試業務にかかる内部質保証を確実にし、公平で公正な入学者選抜を行い、社会に説明すべきである。

・2020(令和 2)年度の入学者選抜については外部委員が過半数を占める「入学者選抜検証委員会」が公平性に関する検証を進めているが、検証結果を速やかに公表して、公平で公正な入学者選抜が実施されていることを明示すべきである。

#### 改善状況

・2015(平成 27)年～2018(平成 30)年度(以下:当該年度)本学一般入学試験第2次試験における文部科学省、第三者委員会、大学基準協会からの「不適切であった可能性が高い」

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

との指摘に対しては、「属性による点数の差異が生じたことを真摯に受け止めている」との見解を示し、その対応として、当該年度の第2次試験受験者のうち、①本学入学者、②本学第2次試験合格者で本学入学辞退者を除く全ての受験者の方に対し、入学検定料相当額等を返還することを決定し、2020(令和2)年2月20日付で本学ウェブサイトに公表し返還手続きを行ったところである。その後、文部科学省より2020(令和2)年10月1日付で当該年度の本学一般入学試験第2次試験について、「不適切な入試があったと見なさざるを得ない」との見解が示されたことから、当該年度に本学を受験された全ての受験者(本学入学者・辞退者を除く)に対して、2020(令和2)年12月10日付で本学ウェブサイトに公表し現在に至るまで申請者に返還手続きを行っているところである(資料4-1)。

入学者選抜の改革としては、後述のとおり入学者選抜の事後検証として外部委員を主体とする入学者選抜検証委員会を設置するなど、継続的に公平性を担保する体制を整え、それらに伴う学内規程の制定・改定を進めた結果、入試業務は透明化されており、現在、入学者選抜は公平公正に行われていると確信できる状態になっている(資料4-2)。

・面接試験における評価の平準化を目的として、2022(令和4)年度より、入学者選抜の面接試験を担当する教員を対象に「入学者選抜にかかる面接FD」を継続的に開催している(資料4-3)。FDは当該年度に面接委員を担当する教員全てを対象としており、対象教員の6割以上の教員が出席している。なお、面接試験は3人1組で実施しており、3人のうち最低1人以上はFD受講者を配置し、適切な面接の実施に努めている。

・入試業務の透明性が確保されるよう、2021(令和3)年4月に、入試委員会内規を制定した。当内規では、「入学者選抜の結果を自己点検評価・運営委員会(2022(令和4)年4月1日付で「大学自己点検・評価委員会」へ改称)に付託し、内部質保証に努めること」が規定されている。具体的には、入試委員会が立案した入試業務は主任教授会の議を経て遂行される。入試委員会および主任教授会での実質的審議のうえ決定された合否判定結果は、2か年に渡り、外部委員を含む入学者選抜検証委員会で点検され、その結果は大学自己点検・評価委員会を通じて大学にフィードバックされた。さらに、2023(令和5)年度入学者選抜より、入試委員会内規第11条4項に「合否判定会議で用いる合否判定資料は、当該入学者選抜において実施された試験科目の成績のみに基づき公正に作成されていることが、監事もしくは顧問弁護士またはそれに準ずる立場の者によって予め確認されたものでなければならない」とする文言を追加し、合否判定の公平性を担保する体制を整えた(資料4-4)。

2020(令和2)年度監事監査報告書において提言された、「入学者選抜に係る専門事務部門の設立」について検討を行い、担当部署として、2022(令和4)年4月に教学部に新たに「入試課」を設置した(資料4-5)。これにより、学校推薦型選抜(一般公募制・神奈川県地域枠)、一般選抜(前期・後期)の入学者選抜の実施に加え、自他の入学試験問題の収

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

集・分析、社会動向の調査、教員に対する Faculty Development (FD)、教学 IR センター (IR:institutional research)との連携、オープンキャンパスの立案・実行、入学者選抜に係る広報等の業務を専門部署が一元的に扱うことが可能となった。

・入学者選抜の公平・公正を継続するため、2021(令和3)、2022(令和4)年度に渡り、外部委員を主体とする入学者選抜検証委員会を設置し検証を行った。同委員会において、受験生の答案用紙に記された点数が合否判定資料に正確に転記されていることを実地検証したうえで、主任教授会で審議・承認された判定会議資料が入学者選抜要項に記載された配点のみにより集計し、順位付けが行われていることが確認された。この検証結果については、外部委員を含む大学自己点検・評価委員会において報告・承認のうえ、「入学者選抜に関する検証報告書」として、大学ホームページにて公表している(資料4-6)。

また、入学者選抜検証委員会からの提言に基づき、入試委員会内規を見直し、2022(令和4)年4月1日付で、入試委員会内規第11条第4項に「合否判定会議で用いる合否判定資料は、当該入学者選抜において実施された試験科目の成績のみに基づき公正に作成されていることが、監事もしくは顧問弁護士またはそれに準ずる立場の者によって予め確認されたものでなければならない」と規定し、2023(令和5)年度入学者選抜より、監事等による合否判定資料の確認を実施している。毎年、入学者選抜実施後に過去3年間に亘る入試結果に関する情報を速やかにホームページに掲載し、情報の公開に努めている(資料4-7)。

## 今後の計画

入学者選抜については、今後も公平性・公正性を確保するとともに、大学自己点検・評価委員会を中心に不断の検証を行い、より一層透明性の高い入学者選抜制度の構築に向けた取り組みを続けていく所存である。また、2022(令和4)年度入学者選抜をもって廃止した学校推薦型選抜(指定校制)については、受験学齢人口が減少し続ける状況を鑑み、優秀な学生の確保と高等学校と大学との連携が図れるよう、新たな学校推薦型選抜制度について、継続して検討を行っていく。

一般選抜においては、近年多様な入学者選抜の実施が求められており、様々な背景を持つ学生の受入れについて、アドミッション・ポリシーに適合する、良き臨床医となる適性を持つ人物を選抜できるよう、教学 IR センターにおいて、入学試験成績と入学後の修学状況及び医師国家試験の合否との関連性について検証を進めている。

また、2025(令和7)年度入学者選抜より、大学入学共通テスト利用入試の導入を予定しており、今後も入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的に評価・判定できるよう、多様な入学者選抜の実施について検討を行っていく。

## 根拠資料

資料4-1:平成27年度から平成30年度までの本学一般入学試験出願者への入学検定料等相当額の返還について「[http://www.marianna-u.ac.jp/univ/news/20201210\\_01.html](http://www.marianna-u.ac.jp/univ/news/20201210_01.html)」

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

資料 4-2: 入学者選抜検証委員会委員等一覧
資料 4-3: 2022(令和 4)年度入学者選抜にかかる面接 FD
資料 4-4: 入試委員会内規
資料 4-5: 事務組織規程
資料 4-6: 2022(令和 4)年度入学者選抜に関する検証報告書の公表について 「 <a href="https://www.marianna-u.ac.jp/univ/news/20220729_01.html">https://www.marianna-u.ac.jp/univ/news/20220729_01.html</a> 」
資料 4-7: 入試データ「 <a href="https://www.marianna-u.ac.jp/univ/ent_info/ent_data.html">https://www.marianna-u.ac.jp/univ/ent_info/ent_data.html</a> 」

4.1 入学方針と入学選抜
質的向上のための水準: 部分的適合

特記すべき良い点(特色)
・アドミッション・ポリシーは 2010(平成 22)年に制定され、2020(令和 2)年に改訂されている。
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

改善のための示唆
・入学者選抜における疑義申し立て制度を設定し、受験者等に周知することが望まれる。
改善状況
2022(令和4)年 4 月 19 日開催の第 1 回入試委員会において、導入に向けて検討を開始した(資料 4-8)。
今後の計画
2024(令和 6)年度入学者選抜からの疑義申し立て制度の導入に向けて、入試委員会において、具体的な制度設計について検討を進める。
根拠資料
資料 4-8: 2022(令和4)年度第 1 回入試委員会議事要旨

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準:適合

### 特記すべき良い点(特色)

- ・「学年担当委員制度」、「学生相談室」等で学生に対するカウンセリングを行っていることは評価できる。
- ・オンライン化された学生個人記録システムを活用して継続的に学生支援を行っていることは高く評価できる。

### 特色を発展させるため活動状況

### 今後の計画

### 根拠資料

### 改善のための助言

- ・健康診断の再検査の受診率が 20%と低いため、学生の健康管理について十分指導すべきである。

### 改善状況

検査数値や所見に対する受診の必要性を段階的に表記することにより、再検査対象者の受診意欲向上を図った。

### 今後の計画

オリエンテーションにおいて、健康診断の重要性について周知し、実施後においては再検査の指導を積極的に行う。

### 根拠資料



# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)
・学年担当教員が学修上のカウンセリングを行っている。
特色を発展させるため活動状況
新型コロナウイルスの影響により学生と直接接触する機会は減少したが、学習支援のための講義動画や資料のアップロードが積極的に行われた。
今後の計画
新型コロナウイルスによる規制が緩和されたことに伴い、これまで推奨できなかった学生との昼食会や学年別の学年担当委員会を企画し、情報共有を進め、対面による指導体制を強化する。
根拠資料

改善のための示唆
・学修上のカウンセリングを提供する際には、キャリアガイダンスとプランニングを確実に含めることが望まれる。
改善状況
2023(令和5)年度の学年担当委員の活動について、学習指導だけでなくキャリアガイダンスの実績についても報告を求めるものとした。
今後の計画
委員の活動報告の様式を変更する。
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 4.4 学生の参加

基本的水準:部分的適合

### 特記すべき良い点(特色)

・カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会に学生は正規の委員として参加している。

### 特色を発展させるため活動状況

### 今後の計画

### 根拠資料

### 改善のための助言

・使命を策定する委員会、学生に関する諸事項を審議する委員会に、学生が正規の委員として参加し、適切に議論に加わるべきである。

### 改善状況

学年担当委員会としては、学生生活の諸事項について話し合う機会を設けている。

### 今後の計画

今後も学生との委員会を定期的を開催し、意見交換の機会を継続していく。

### 根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

4.4 学生の参加
質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)
・ 課外活動、地域活動等を通じて貢献している団体、個人を大学として推奨し、表彰していることは評価できる。
特色を発展させるため活動状況
宮前区・田園調布学園大学・本学との三者協定に基づいて、宮前区主催の地域包括ケアシステム推進イベント等に本学学生が参加している(資料 4-9)。
今後の計画
新型コロナウイルスに係る感染対防止策を講じた上で、学生の課外活動・地域活動について推奨していく。 また、宮前区・田園調布学園大学・本学との三者協定に基づき、学生が区民への健康増進や災害対策の啓発活動に参加しており、この活動についても次年度継続していく。
根拠資料
資料 4-9: 本学HP <a href="https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/lifelog/20220420_01/">https://www.marianna-u.ac.jp/houjin/lifelog/20220420_01/</a> 宮前区チャンネル(期間限定で掲載、現在削除している) <a href="https://www.youtube.com/watch?v=MmJr4agBrNQ&amp;t=87s">https://www.youtube.com/watch?v=MmJr4agBrNQ&amp;t=87s</a>

改善のための示唆
なし
改善状況
今後の計画
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 5. 教員

### 5.1 募集と選抜方針

基本的水準:部分的適合

#### 特記すべき良い点(特色)

・教育・診療体制強化のため臨床医学系教員の大幅な増員を計画し、段階的に実行していることは評価できる。

#### 特色を発展させるため活動状況

・教育・診療体制の強化と医師の働き方改革を目的に、臨床医学系教員の大幅な増員計画を継続的に取り組んでいる。

#### 今後の計画

・次に示す講座の教員数が目標人員を大きく下回っていることから、積極的に採用を行う。  
※循環器内科学、消化器・一般外科学、呼吸器外科学

#### 根拠資料

#### 改善のための助言

- (1)教育、研究、診療の役割のバランスを十分に考慮して、教員の選考基準を定めるべきである。
- (2)講座の職務に適正な教員が配置されているかを判断するための客観的基準を定めるべきである。

#### 改善状況

- (1)「教育主体」が例外的な扱いということが問題との指摘を受け、選考書類では教育関係研修への参加・受講歴や、講座代表者推薦文の中で教育に係る内容について十分な確認を行っており、教育の実績も評価され昇任した教員の実績を上げることが出来ている。
- (2)講座の職務に適正な教員が配置されているかを判断するために、授業時間数、論文発表数、研究費獲得件数、診療実績(患者数、手術件数、稼働額等)を用いて、客観的にチェックを行っている。今後は、3年毎に実施しているタイムスタディ調査の結果も用いて、人員数等を考慮することを検討している。

#### 今後の計画

- (1)様々な教育における評価項目に対して、本学教員選考時の基準として、どの様に落とし込んでいくかを教員組織委員会にて検討し、教育、研究、診療のバランスを十分に考慮した教員選考体制を整備する。
- (2)改善状況にて述べたとおり、教育・研究・診療における客観的な数値に基づき、適正な教員配置に努めている。ただし、明確な基準は定められていない。今後、タイムスタディ調査の結果を用いることも検討しており、より客観的に判断できる基準を定めることを模索していく。

#### 根拠資料

資料 5-1:2022(令和4)年度第11回教員組織委員会議事要旨

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)
・各講座が年度ごとの活動目標の設定と自己評価を実施し、それに対してフィードバックが行われている。
特色を発展させるため活動状況
・講座(分野)における目標と行動計画の策定と自己評価を継続して実施し、講座(分野)の諸活動の活性化に繋げていきたい。
今後の計画
・定期的に、実施方法や評価方法等などを見直し、より良い仕組みに改善していきたい。
根拠資料

改善のための助言
(1)教育、研究、診療の職務間のバランスを考慮して、教員の活動と能力開発に関する方針を策定すべきである。 (2)講座ごとに行われている教員評価が適正に行われているかを客観的に確認・点検する仕組みを構築すべきである。 (3)病院所属の教員が教育・研究にもさらに貢献できるよう研修、能力開発、支援体制を構築すべきである。 (4)入試面接能力強化をはじめ、医学教育の能力開発をさらに進めるべきである。
改善状況
(1)教育、研究、診療の職務間のバランスを調査するため、2021(令和3)年度の教員自己点検評価より、全教員に対して教育・研究・臨床の職務間のエフォート率調査を実施するようになった。同調査では、教員が目指すエフォート率と実際のエフォート率を回答することになっている(資料5-2)。 (2)現在、講座ごとに行われている教員評価を客観的に確認・点検する仕組みは構築されていないが、各講座代表の評価が適切であるかをチェックすることは重要であり、早急に対応策を検討することを模索する。 (3)前回の受審時には、本学の教育や研究に関する研修、能力開発、支援体制について、「対象者が限定的である」「対象が全教職員でも参加者が十分でない」「研修の内容がCBTやOSCE対応などで教員の教育・研究能力開発と必ずしも結び付いていない」という指摘があった。これを受け、本学では教職員の参加者数を増やすために、主任教授会やメーリングリスト等において、周知徹底を図るとともに、オンデマンド配信を行い、教職員が参加しや

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

<p>すい環境を整えた。</p> <p>(4)面接試験における評価の平準化を目的として、2022（令和 4）年度より、入学者選抜の面接試験を担当する教員を対象に「入学者選抜にかかる面接 FD」を継続的に開催している（資料 4-3）。</p> <p>また、教員の資質向上を図るための方策として、教員の活動と能力開発に関する方針を作成し、時代の要請に応じたテーマに基づき、「スキルアップ FD」、「CBT 問題作成ワークショップ」、「OSCE 評価者養成研修会」などを開催している。</p>
<p>今後の計画</p> <p>(1)まずはエフォート率調査の結果を分析し、教員自身が目指すエフォート率と実際の乖離について分析を行う。その上で、教員の活動と能力開発に関する方針にどのように反映させるかを検討する。</p> <p>(2)現在、講座ごとに行われている教員評価の客観的な確認や点検を行う仕組みは構築されていない。しかし、各講座代表の評価が適切かどうかをチェックすることは重要であり、早急に対応策を模索する必要があると考えている。</p> <p>(3)今後も参加者数を増やすよう努め、また、研修内容についても教職員が希望する内容や包括的な内容の研修会を開催し、参加者がスキルアップできる機会を提供することを検討する。さらに、新たな支援体制の構築についても模索していく。</p> <p>(4)教員の資質向上を図るため、今後もアクティブラーニング形式の FD の充実を図っていく。</p>
<p>根拠資料</p> <p>資料 5-2:(1)2021(令和 3)年度教員自己点検評価</p> <p>資料 4-3:(4)2022(令和 4)年度入学者選抜にかかる面接 FD</p>

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

5.2 教員の活動と能力開発
質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)
・教育・診療体制強化のため教員の増員を行っていることは評価できる。
特色を発展させるため活動状況
・教育・診療体制の強化と医師の働き方改革を目的に、臨床医学系教員の大幅な増員計画を継続的に取り組んでいる。
今後の計画
・次に示す講座の教員数が目標人員を大きく下回っていることから、積極的に採用を行う。 ※循環器内科学、消化器・一般外科学、呼吸器外科学
根拠資料

改善のための示唆
なし
改善状況
今後の計画
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 6.教育資源

6.1 施設・設備
基本的水準:適合

特記すべき良い点(特色)
・カリキュラムが適切に実施されるための施設と設備が整っている。 ・ICT 活用のための設備が充実しており、自習環境が整備されている。
特色を発展させるため活動状況
学年担当委員会において、障がいをもつ学生が本学に入学する際、施設・設備面で十分な対応を行えるよう、現在、学内関連部署と連携して「聖マリアンナ医科大学障がい学生の教育支援に関する基本方針(案)」を策定中である(資料 6-1)。
今後の計画
支援を必要とする学生が本学での学業に専念できるよう、必要に応じ、適宜ハード面の改修・改築を行っていく。
根拠資料
資料 6-1:聖マリアンナ医科大学障がい学生の教育支援に関する基本方針(案)

改善のための助言
・教職員向けの医療安全研修会等を活用し、学生の医療安全に関する学修の機会を確保すべきである。 ・安全な臨床実習の環境を整えるために、学生の健康診断を徹底し、再検査の受診率を高めるべきである。
改善状況
学生の健康診断について、再検査は検査数値や所見に対する受診の必要性を段階的に表記することにより、再検査対象者の受診意欲の向上を図った。
今後の計画
学生の医療安全に関する学修の機会については、今後臨床実習委員会内において、教職員向けの医療安全研修会等の活用を検討していく。また、健康診断の再検査については、オリエンテーションにおいて、健康診断の重要性について周知し、実施後においては再検査の指導を積極的に行う。
根拠資料



# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

6.1 施設・設備
質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)
・新病院のオープンを軸とした菅生キャンパスリニューアル計画で、臨床教育における学修環境を改善しようとしている。
特色を発展させるため活動状況
臨床教育における学修環境の改善については、臨床実習委員会内に CC-EPOC 導入検討部会(資料 6-2)を立ち上げ、電子ポートフォリオシステムを「CC-EPOC(資料 6-3)」に切り替えた。また、2023(令和 5)年 1 月に新たに大学病院の入院棟がオープンしたことに伴い、電子カルテ端末数は以前より約 400 台増加し、より学生が電子カルテにアクセスしやすい環境が整えられている。
今後の計画
指導者の CC-EPOC 修熟向上の施策を実行する。
根拠資料
資料 6-2:CC-EPOC 導入検討部会員一覧 資料 6-3:CC-EPOC 概要

改善のための示唆
なし
改善状況
今後の計画
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 6.2 臨床実習の資源

基本的水準:適合

### 特記すべき良い点(特色)

・多くの臨床教育病院を有し、様々な疾患を経験できる学修環境を整えている。

### 特色を発展させるため活動状況

### 今後の計画

### 根拠資料

### 改善のための助言

・臨床実習において、プライマリ・ケアの経験を十分に積める実習施設をさらに拡充すべきである。

### 改善状況

第5学年次臨床実習の総合診療内科ローテート中に、学外の診療所においてプライマリ・ケアに関する知識や技能、態度について学んでいる(資料6-4)。

### 今後の計画

現在ご協力いただいている学外施設には引き続き本学学生の受入れを依頼すると同時に、さらなる受入れ施設の拡充に努める。

### 根拠資料

資料6-4:2023(令和5)年度総合診療内科地域臨床実習施設一覧

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

6.2 臨床実習の資源
質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

改善のための示唆
・附属病院での患者満足度調査等で明らかになった患者の要請や、地域医師会や自治体との連携の中で明らかになった地域住民の要請を、教育 IR センターが収集・分析し、臨床教育に活用することが望まれる。
改善状況
現在の患者満足度調査では医学生や臨床教育に関する項目がないため、当該項目を加えたうえで患者満足度調査を行うよう、調整を図る。
今後の計画
調査内容項目については臨床実習委員会で検討し、調査結果については教育 IR センターと連携のうえ、臨床教育への活用を検討する。
根拠資料

医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

6.3 情報通信技術
------------

基本的水準:部分的適合
-------------

特記すべき良い点(特色)
--------------

・学内 LAN に接続できるデバイスを登録管理制にすることで不適切なアクセスを防止している。
------------------------------------------------

特色を発展させるため活動状況
----------------

今後の計画
-------

根拠資料
------

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 6.3 情報通信技術

基本的水準:部分的適合

### 改善のための助言

・オンライン教育への活用を踏まえ、臨床実習・講義における患者情報の取り扱いについて倫理面に十分に配慮した方針を策定すべきである。

### 改善状況

第1学年および第3学年「実践医学」(資料6-5)並びに第3学年「医療倫理」(資料6-6)内において、医療における個人情報保護および情報倫理、患者情報の漏洩に関する講義を実施し、低学年のうちから患者情報の取り扱いについて意識づけを行っている。また、第4学年にて実施される「研究室配属」オリエンテーション時に個人情報保護に関する誓約書(資料6-7)を記入・提出させている。臨床実習開始前のオリエンテーション実施時には、患者情報等を含めた個人情報の取り扱いについて再度周知を行っている(資料6-8)。

### 今後の計画

2023(令和5)年1月に電子カルテシステムが変更となったことに伴い、学生が入力した内容は指導医が確認のうえ承認が必須となったため、学生の患者情報の取り扱いについてより徹底した管理が期待される。なお、臨床実習中の画像等の持ち出し、また、実習に利用する動画の個人情報削除など、実際に画像や動画を利用する際の運用方法やルールについて、検討する。

### 根拠資料

資料6-5:「実践医学」講義日程(第1学年、第3学年)

資料6-6:「医療倫理」講義日程(第3学年)

資料6-7:臨床実習および研究室配属に関する誓約書

資料6-8:2022(令和4)年度第4学年臨床実習オリエンテーション

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

6.3 情報通信技術
質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)
・学内の ICT 設備が充実しており、自己学習の環境が整っている。 ・教員だけでなく学生も医学情報センターが契約している電子リソースにリモートアクセスできる。
特色を発展させるため活動状況
教員の指導及び学生の学習補助として、標準医学シリーズの e テキストを中心とした電子教材「iSmart(資料 6-9)」を導入し、全学生が閲覧可能となるよう、アカウントを付与する予定である。
今後の計画
2023(令和 5)年度からの電子教材「iSmart」本格導入に向け、2023(令和 5)年 2 月 1 日より教員及び学生へのトライアルを開始している。
根拠資料
資料 6-9:iSmart 概要

改善のための示唆
・病棟に配属された学生数に見合った学生用電子カルテ端末を設置し、学生が病棟でカルテ記載を円滑に行える環境を整備することが望まれる。
改善状況
以前は学生が利用できる電子カルテ端末数に限りがあったが、2023(令和 5)年 1 月に大学病院の入院棟がオープンしたことに伴い、電子カルテ端末数は以前より増加しており、学生が電子カルテにアクセスしやすい環境が整えられた。
今後の計画
学生用電子カルテ端末については、管理者、設置場所、台数などを含めて今後検討を継続していく。
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

6.4 医学研究と学識
質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)
・学内研究室だけでなく、国内提携校の研究室への配属を含め、学生に医学研究や開発に携わることを奨励している。
特色を発展させるため活動状況
2023(令和5)年度から、第4学年「研究室配属」において、協定校(明治大学)だけではなく、学生が自ら研究施設に問い合わせ、受入れの内諾を得た施設への配属が認められる「自己開拓」コース(資料6-10)を導入した。
今後の計画
根拠資料
資料6-10:研究室配属「自己開拓」コースについて

改善のための示唆
なし
改善状況
今後の計画
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 6.5 教育専門家

基本的水準:適合

### 特記すべき良い点(特色)

・カリキュラム開発や学生評価において教育専門家へアクセスしながら電子ポートフォリオや Script Concordance Test など、新しい手法を導入している。

### 特色を発展させるため活動状況

本学が卒前卒後臨床教育で導入していた独自開発の e-Portfolio から全国医学部長病院長会議の開発した、医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した CC-EPOC に 2023(令和 5)年 1 月から移行した(資料 3-1)。また、「症候から病態へのアプローチ」では ePBL を導入し、ICT の利用を積極的に推進している。

態度領域の客観的評価のため、医学教育専門家が中心となって GPS Academic を導入し、医学部第1学年と第4学年とに実施した(資料 6-11)。解析結果は態度領域の成長の指標として学生にもフィードバックしている。

### 今後の計画

2022(令和 4)年に新しい医学教育モデル・コア・カリキュラムが公開された。新しく設定された医師に求められる資質と能力の項目に合わせ、学内の医学教育専門家が中心となって現行カリキュラムを見直し、2024(令和6)年度からの新カリキュラムを構築していく。

### 根拠資料

資料 3-1:CC-EPOC 説明資料(学生用)

資料 6-11:GPS-Academic 概要



# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 6.5 教育専門家

基本的水準:適合

### 改善のための助言

・医学教育専門家が中心となって開発した新しい手法を、さらに積極的に活用するための方針を策定すべきである。

### 改善状況

医学教育専門家が中心となって導入した各種ポートフォリオ、ルーブリック評価について、各教科の実情に合わせた修正を実施した。臨床実習における e-Portfolio は全国で導入されている CC-EPOC へと 2023(令和 5)年 1 月から移行し、実践医学におけるポートフォリオでは、“考察”の記載を“省察”の記載へと変更し、学生に周知した(資料 6-12)。さらに第 1 学年のアカデミックスキルズでは、学生によるプレゼンテーション評価の評価ルーブリックを全面的に見直し、新たな評価表に変更した(資料 6-13)。

### 今後の計画

各教科で使用されているポートフォリオとルーブリック評価について利用実績から評価の実際について検証し、さらに修正・改善をおこなっていく。

臨床教育における Script Concordance Test の活用について実用に向けて検討する。

### 根拠資料

資料 6-12:第 1~4 学年「実践医学」ポートフォリオ省察の書き方について

資料 6-13:第 1 学年「アカデミックスキルズ」後期プレゼンテーション評価用ルーブリック

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

6.5 教育専門家
質的向上のための水準:適合
特記すべき良い点(特色)
・新入職教員を対象にしたスキルアップ FD を公開し、全教員が学生教育について最新情報に触れることができるようにしている。
特色を発展させるため活動状況
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2020(令和2)年度より「スキルアップ FD」は対面形式よりオンライン上で受講できるようオンデマンド形式の実施に切り替え、教員のアクセスのしやすさに配慮している(資料 6-14)。その結果、オンライン用に作成した動画の内容が本学の学生教育の基本的考え方や教育システムの理解を深めるのに有用であるとの判断から、従来スキルアップ FD の対象者としていた新任の教員以外にも視聴可能とし、全教員に対して「スキルアップ FD」について周知し、学生教育についての最新情報に触れる事が出来るよう改善した。 また、カリキュラム委員会では、2021(令和3)年度から、より多くの教員へ本学のカリキュラム内容を周知するため、各講座・分野の学生教育を担当する教育副主任を対象にした「教育担当副主任者会議」を年 4 回開催(資料 6-15)している。
今後の計画
根拠資料
資料 6-14:2022(令和4)年度スキルアップ FD 概要 資料 6-15:2022(令和4)年度教育担当副主任会議開催日程

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 6.5 教育専門家

質的向上のための水準:適合

### 改善のための示唆

・教育専門家の研究成果をさらに積極的に活用することが望まれる。

### 改善状況

「症候から病態へのアプローチ」では ICT を利用した実践的 PBL (e-PBL) を導入 (資料 6-16) し、学生と教員との ICT 利用を積極的に推進している。  
初年次教育において、第 1 学年の臨床倫理教育の一環として「Cinemeducation (資料 6-17)」を対面で実施しており、使用する素材や検討項目を見直しながら継続的に実施している。

### 今後の計画

・2016(平成 28)年度の医学教育モデルコアカリキュラムの改訂時の研究成果を踏まえ、2022(令和 4)年度改訂の医学教育モデルコアカリキュラムに合わせ現行カリキュラムを構築する。

### 根拠資料

資料 6-16: 医学部卒前教育における ICT を利用した実践型 Problem-Based Learning の開発と導入

資料 6-17: 「Cinemeducation」説明資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

6.6 教育の交流
質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)
・学生の国内外の留学経費の一部を補助している。
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

改善のための示唆
・教職員と学生の国内外の交流をさらに促進することが望まれる。
改善状況
2022(令和4)年度より、各国の情勢に十分配慮しながら順次海外協定校との交流が再開している状況である。学内では SMU English Café を定期的で開催(資料 6-18)し、留学生や研究員などが学内に在籍している場合、その方を招待し学生との交流の場を提供している。また、2022(令和4)年3月～8月の6ヶ月間、フルブライト奨学生を受け入れ、本学在籍中、全教職員および学生・大学院生を対象にセミナーを実施(資料 6-19)した。
今後の計画
昭和薬科大学および東京純心大学と合同で実施している「多職種連携セミナー(第4学年)」について、3大学内での本セミナーの位置づけおよび各校の協力体制を明確にするため、2023(令和5)年度に学術交流協定書および覚書を締結する(資料 6-20)。外国人研究員や留学生の受入れ、既存の協定校との交流は引き続き継続していく。特に協定校については現地訪問などを行い、相互協力の体制構築およびコミュニケーションの場を設けていく予定である。また、協定校がない地域(欧州圏など)の医科大学との協定締結について、引き続き、検討・推進していく。
根拠資料
資料 6-18:2022(令和4)年度 SMU English Café 開催日程 資料 6-19:公衆衛生セミナー「COVID パンデミックと高齢者」学内ポスター 資料 6-20:多職種連携セミナー実施に係る学術交流協定書および覚書

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 7.教育プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価
基本的水準:部分的適合
特記すべき良い点(特色)
・2020(令和2)年8月に教学IRセンターを設置した。
特色を発展させるため活動状況
<p>教学IRセンターではおおむね月1回の頻度で実務的な打ち合わせを行い、データの収集・解析の状況の確認を行っている。また教学IRセンター運営のための教学IR委員会を年2回開催し、教育プログラムのモニターと評価に関する教学IRセンターの方針を議論し決定している(資料7-1)。</p>
今後の計画
<p>毎月1回の教学IRセンターの実務的な打ち合わせ、年2回の教学IR委員会の開催を定期的に行い、教学IRセンターの活動を管理・運営していく。また教学IRのあり方についても検討していく。これには、データを利用して機関の意思決定支援を行うというIRとしての本質をどのように達成していくか、何をKPI(Key Performance Indicator)として捉えるか、マネジメント側のIRだけではなく学生のためのIRをどのように考えるか、などが含まれる。</p>
根拠資料
・資料7-1:教学IR委員会議事録(2022(令和4)年度第1回・第2回)

7.1 教育プログラムのモニタと評価
基本的水準:部分的適合
改善のための助言
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育プログラムを確実に評価する仕組みを構築し、継続的改良を進めるべきである。</li> <li>・教学IRセンターを中心に、教育プログラムのモニタと評価をするために必要な情報を収集すべきである。</li> <li>・教育プログラムをモニタする委員会が解析し、カリキュラム評価に関与する委員会が行ったプログラム評価の結果を、教育プログラムの改善につなげ、確実に教育プログラムの立案と実行に反映させる体制を整えるべきである。</li> </ul>
改善状況
<p>1. 本学のPDCAサイクルを見直し、新たな内部質保証の体制を構築した(資料7-2)。</p> <p>本学では、2017(平成29)年度に自己点検・評価運営委員会の下に医学教育評価・検証委員会を発足し、その下部組織としてカリキュラム委員会から独立したカリキュラム評価委員会を組織した。これにより、カリキュラムの企画・立案から策定までを担うカリキュラム委員会とカリキュラムの評価・検証を行うカリキュラム評価委員会との機能分化を行った。また、</p>

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

2020(令和2)年には教学関係のデータの収集、分析を行うための教学 IR センターを発足させた。

これにより、カリキュラム委員会が企画・立案・実行・改善、教学 IR センターがデータの収集及び基礎データの分析作業、カリキュラム評価委員会、医学教育評価・検証委員会、自己点検・評価運営委員会が評価・検証を担う体制を構築した。

しかしながら、2021(令和3)年に受審した医学教育分野別評価において、各委員会が独自に活動しており、系統的に評価できていない旨の指摘を受けた。これを受け、「自己点検・評価運営委員会」を「大学自己点検・評価委員会」と改称し、「医学教育評価・検証委員会」を「医学部自己点検委員会」へ統合、「カリキュラム評価委員会」を「医学部自己点検委員会」の部会として評価体制を再構築した(図 7.1-1 参照)。また、本学における内部質保証(PDCA)サイクルのイメージは以下のとおりである(図 7.1-2)。

このシステムに基づき、2022(令和4)年度は教育プログラムの評価のためにカリキュラム評価部会を開催し(資料 7-3)、結果を上位の委員会である医学部自己点検委員会に報告した(資料 7-4)。

2. アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの3ポリシーに加え、新たにアセスメント・ポリシーを作成した(2022(令和4)年度第5回主任教授会で承認)(資料 7-5、7-6)。これにより評価に用いるモニタ項目と教学 IR センターで収集するデータが明確となった。

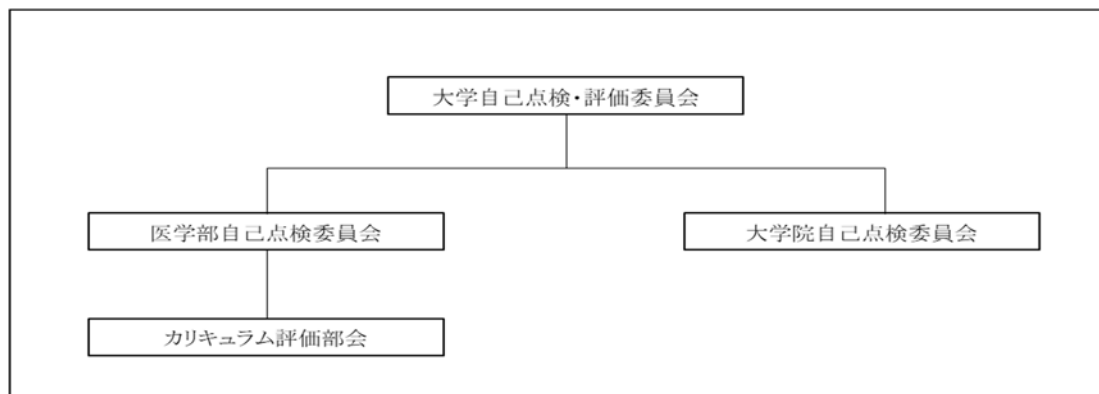
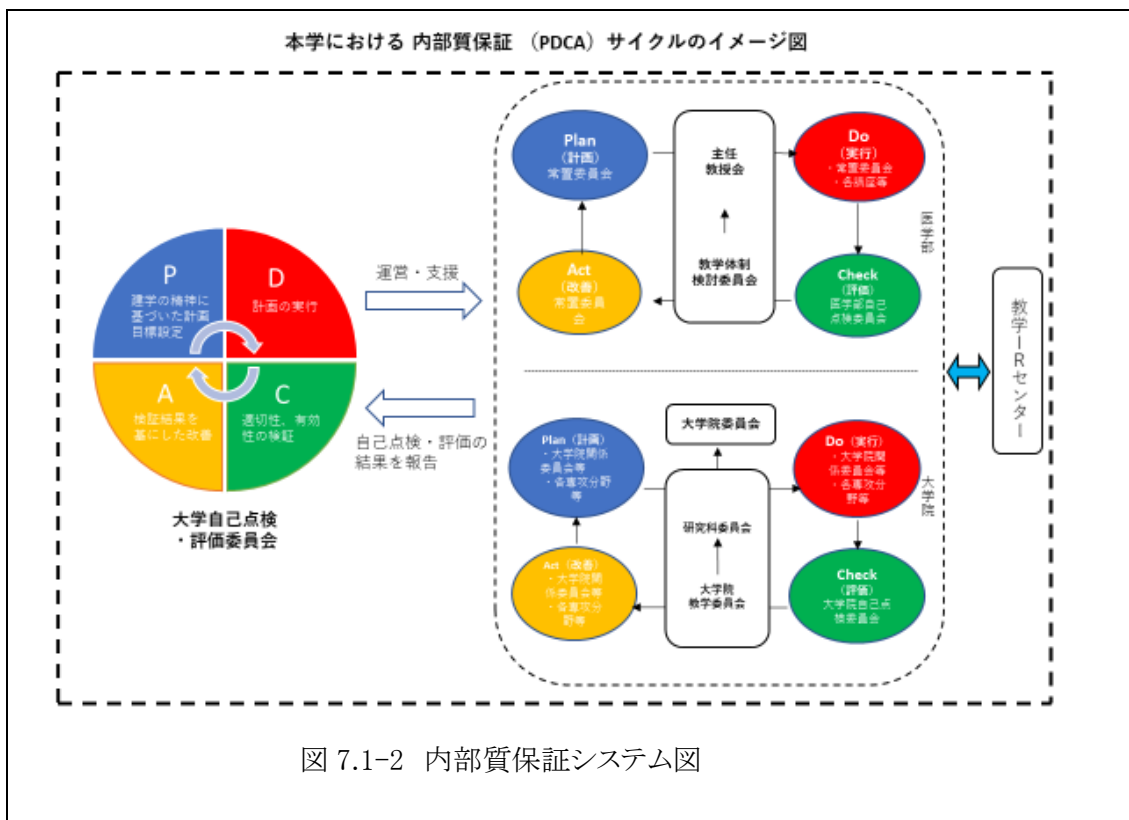


図 7.1-1 自己点検組織図

医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書  
2023 年度  
評価受審年度 2021(令和3)年



今後の計画

上記で示した内部質保証の体制、即ち①3つのポリシーに沿って構築された教育プログラムを、②アセスメント・ポリシーに沿って教学 IR センターが収集・解析したデータに基づき、カリキュラム評価部会が評価し、③これを上位の委員会である医学部自己点検委員会、さらには大学自己点検委員会に上程し、④教育プログラムの改善につなげる、という体制を今後も継続していく。

根拠資料

- ・資料7-2: 本学における内部質保証(PDCA)サイクルのイメージ図
- ・資料 7-3:カリキュラム評価部会議事録(2023(令和 5)年 2 月 8 日)
- ・資料 7-4:医学部自己点検員委員会議事録(2022(令和 4)年度第 9 回)
- ・資料 7-5:アセスメント・ポリシー
- ・資料 7-6:2022(令和 4)年度第 5 回主任教授会議事録

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

7.1 教育プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準:部分的適合
特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
<p>ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、コンピテンス、コンピテンシー、マイルストーン、マトリックス表、科目ごとの学習内容、到達目標、学習法、臨床実習、及び評価方法について記載したシラバスに関し、2022(令和4)年度より、これらに加えて科目ごとのマイルストーンを記載することとした。</p> <p>またシラバス第三者評価委員会による記載内容の点検と評価を、2017(平成 29)年度より年 1 回、定期的に行っている(資料 7-7)。評価の内容はカリキュラム委員会、およびカリキュラム評価部会に報告され、教育プログラムの包括的評価の一助となっている。</p>
今後の計画
シラバスに関し、上記の体制を継続していく。
根拠資料
・資料 7-7:シラバス第三者チェックシート

7.1 教育プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準:部分的適合
改善のための示唆
・教学 IR センターが収集した情報をもとに、定期的に教育プログラムを包括的に評価する仕組みを構築することが望まれる。
改善状況
<p>前述のとおり、新たな内部質保証の体制の構築、アセスメント・ポリシーの作成とそれに基づくモニタ項目の明確化が成された。これにより①3つのポリシーに沿って構築されたアセスメント・ポリシー-教学 IR センターが収集・解析したデータに基づき、③カリキュラム評価部会がアセスメント・ポリシーに沿って評価し、④これを上位の委員会である医学部自己点検委員会、さらには大学自己点検委員会に上程する、というシステムが構築された。</p> <p>これらに加え、新たなモニタリング指標として、(株)ベネッセ i-キャリアが提供する GPS (Global Proficiency Skill program)-Academic を導入した。これは、「思考力(思考力、判断力、表現力)」、「姿勢・態度(レジリエンス、リーダーシップ、コラボレーション)」、「経験(自己管理、対人関係、計画実行)」の3つを評価するツール(テスト)で、同時にアンケートにより</p>



# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

意識調査、授業満足度、進路意識なども評価するものである。これを 2022(令和 4)年度より導入し、第1学年と第4学年で実施した。このデータを解析することにより、教育プログラム評価と改善、入試制度の検証、学生指導に役立つ情報の収集を開始した(資料 7-8、7-9)。

## 今後の計画

1. 上記の教育プログラム評価に関する体制を維持していく。
2. GPS-Academic を今後も第1学年(入学後のオリエンテーション時)と第4学年(診療参加型実習開始前のオリエンテーション時)で実施し、①教育プログラム評価と改善:ディプロマ・ポリシーに沿った学修成果が得られているのかの検証、②入試制度の検証:狙った学生が獲得できているか、③学生指導:学生生活で身についた“汎用的能力”(学力以外の能力を含む)の自己認知、に活用する。

## 根拠資料

- ・資料 7-8:2022(令和 4)年度 1 年生 GPS-Academic 分析資料
- ・資料 7-9:2022(令和 4)年度 4 年生 GPS-Academic 分析資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準:部分的適合
特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
<p>学生からのフィードバックには主要なものとして授業内容・定期試験アンケートとカリキュラム委員会(資料 2-8)におけるカリキュラム学生委員との意見交換の2つがある。</p> <p>カリキュラム学生委員は各学年4名ずつで学生間の互選により選出され、毎月1回定期的に開催されるカリキュラム委員会に参加させ、意見交換を行っている(資料 7-10)。</p>
今後の計画
<p>学生からの授業内容に関するアンケート、カリキュラム学生委員との意見交換の2つを軸に教育プログラムの改善を図る。</p>
根拠資料
<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 2-8:カリキュラム委員会委員名簿</li> <li>・資料 7-10:カリキュラム委員会議事要旨</li> </ul>

7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準:部分的適合
改善のための助言
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教学 IR センターを中心に、教員と学生からのフィードバックを系統的に収集する仕組みを実質化すべきである。</li> <li>・収集したフィードバックの情報を分析し、対応すべきである。</li> </ul>
改善状況
<p>学生からの授業内容・定期試験アンケートは毎年実施している。学生からの授業内容・定期試験アンケート→これに対する教員側の回答の記載→主任教授会で報告→学生へフィードバックという仕組みを構築し、実施している。学生へのフィードバックはカリキュラム学生委員を通して、学生全員が閲覧できる状態となっている(資料 7-11)。</p> <p>授業内容アンケートに対する教員側からの回答は、①学生アンケートに対する意見・感想、②挙げられた問題に対する改善点やその方策、③ブロック TBL についての意見・感想の3つに分けて記載するようしており、これにより対応の状況がよりわかりやすいものとなっている。</p>

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

今後の計画
学生からの授業内容・定期試験アンケートを実施→これに対する教員側の回答→主任教授会で報告→学生へフィードバックという仕組みを継続して実行していく。
根拠資料
・資料 7-11:授業内容・定期試験アンケートと教員側からのフィードバック

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準:部分的適合
特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準:部分的適合
改善のための示唆
<p>・教学 IR センターが系統的に教員と学生から収集したフィードバックの結果を利用して、教育プログラムを開発することが望まれる。</p>
改善状況
<p>授業内容及び試験については、前述のとおりすべての科目でアンケートを実施しているが、これとは別にオンライン授業アンケートを実施し、計量テキスト分析による解析を行った。その結果、オンライン授業の利点、欠点として一般的に言われていること、例えば利点として、自分のペースに合わせて勉強を進められる、動画の一時停止、早送り、巻き戻しができるので繰り返し確認できる、メモをとれる、不要な部分を削除できる、時間と費用の節約になるなど、また欠点として 通信環境に左右される、録画の場合授業の内容が一方的になる、周りの目がない環境なので集中力を保つのが難しい、ライブ配信の場合、誰かひとりでも通信環境が悪くなればスムーズな授業を展開しづらくなる、体験学習や実技がともなう授業には不向きなど、一般的に言われていることと同様の意見が多く多くみられた。そのほかの意見として、先生の声が小さくて聴き取りにくい、出席の確認が不安、スクリーンを撮影して配信する場合レーザーポインターが見えない、などの意見がみられた。これらの結果から、今後より良いオンライン授業を展開するために、通信環境とハードウェアの整備－音声とくに重要、教える側の声の大きさ、出席の不安を取り除く、スクリーンを撮影・配信する場合はレーザーポインターの使用を避ける、1週間あるいは1か月間の講義予定の明示、を実施していくこととした。</p>

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

今後の計画
常時行うアンケートとは別に、今回のコロナ禍により導入せざるを得なかったオンライン授業のように何か新たなことが生じた場合、事案に応じて個別にアンケートを行い教育環境の整備、教育プログラムの改善に役立てる。
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準:部分的適合
特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
卒業生の実績把握の方法として、名刺を収集し、名刺に記載してある内容を分析する手法(名刺プロジェクト)を開始した。
今後の計画
卒業生の実績把握としての名刺プロジェクトは、データそのものはナラティブであるが、名刺はそのひとの実質を表しており、実績の評価に適していると考えられること、収集しやすいこと、収集したものが無駄にならずデータとして蓄積されていくこと、等から、引き続き推進していく。
根拠資料

7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準:部分的適合
改善のための助言
・使命と意図した学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して学生と卒業生の実績を収集し分析すべきである。
改善状況
アセスメント・ポリシーに基づき、卒業生に対するアンケートを 2022(令和 4)年度より開始した。この卒業時アンケート調査では、ディプロマ・ポリシーの達成度について、医師の責務、医師の姿勢、コミュニケーション能力、社会的責任、省察的実践家の5項目は 5 点満点で 4.06~4.46 と比較的高く、一方複合的知識、問題解決能力、基本的診療能力の3項目は、3.37~3.63 とやや低値であった。また本学の教育設備に関する満足度は 3.46 とやや低い値であった。
今後の計画
卒業生に対するアンケート調査は 2022(令和 4)年度から始めたこと、回収率が約 30%と低いことから、今後もこのアンケートを継続しデータを集積していく。
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準:部分的適合
特記すべき良い点(特色)
・入試区分(指定校推薦、一般公募推薦、神奈川地域枠、一般入試)による入学後の学生の成績を集約し分析している。
特色を発展させるため活動状況
<p>入試区分は、2022(令和4)年度の時点で、一般入試(前期、後期)、推薦入試(公募推薦、指定校推薦、神奈川地域枠)の5つである。</p> <p>入試区分による分析は、①入学試験区分と共用試験合格率、②入学試験区分とCBT成績、③入学試験区分と第6学年総合試験の得点、④入学試験区分と医師国家試験合格率の4つについて実施しており、結果は年度ごとにまとめられる教学 IR センター報告書(資料3-5)に記載し、関係委員会に周知するようにしている。</p>
今後の計画
<p>入試区分による解析について、2023(令和5)年度からは、指定校推薦が廃止され、入試区分は4つとなる。また2025(令和7)年度からは大学共通テストの導入が予定されている。このような状況の変化に対応できるよう、教学 IR センターの体制を整備し情報収集を続けていく。</p>
根拠資料
・資料3-5:2022(令和4)年度教学 IR センター報告書

7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準:部分的適合
改善のための示唆
<p>・教学 IR センターが収集した情報をもとに、入学から卒業まで、および卒業後の実績を分析することが望まれる。</p> <p>・学生の実績の分析を使用し、学生カウンセリングに活用することが望まれる。</p>
改善状況
<p>①教学 IR センター報告書にあるように、成績情報として、入試成績、各学年末成績、共用試験成績、プログレストテスト結果、第6学年総合試験(卒業試験)成績、国家試験成績が、学生情報として出席率(欠席率)、面談記録、賞罰情報、進級状況などを学生ごとに収集している</p> <p>②ベネッセが提供するGPS-Academicを導入した。(7.1参照)</p>

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

新たなモニタリング指標として、(株)ベネッセ i-キャリアが提供する GPS(Global Proficiency Skill program)-Academic を導入した(7.1 参照)。これは、「思考力(思考力、判断力、表現力)」、「姿勢・態度(レジリエンス、リーダーシップ、コラボレーション)」、「経験(自己管理、対人関係、計画実行)」の3つを評価するツール(テスト)で、同時にアンケートにより意識調査、授業満足度、進路意識なども評価するものである。これを 2022(令和4)年度より導入し、第1学年と第4学年で実施した。このデータを解析することにより、教育プログラム評価と改善、入試制度の検証、学生指導に役立つ情報の収集を開始した(資料 7-8、7-9)。

## 今後の計画

今回導入した GPS-Academic は、思考力、姿勢・態度、経験に加え、学びへの意欲、大学の魅力、目標・カリキュラム・授業内容の理解、授業・カリキュラムの評価、入学後のイメージ変化・成長実感、大学納得度なども評価できる。これは個別の学生について評価することができる。これらを学生指導に活用する。

## 根拠資料

- ・資料 7-8:2022(令和4)年度 1 年生 GPS-Academic 分析資料
- ・資料 7-9:2022(令和4)年度 4 年生 GPS-Academic 分析資料



# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

7.4 教育の関係者の関与
基本的水準:適合
特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
<p>7.1 の項に記述のとおり、本学の様々な活動を自己点検し評価する最上位の委員会は自己点検・評価委員会であり、委員長は学長が務める。この委員会には医学部長、大学院研究科長、大学病院長、総務担当執行役員、財務担当執行役員に加え、川崎市保健所宮前支所支所長、宮前区医師会長、神奈川県健康医療局保健医療部医療課長が外部委員として構成メンバーとなっている。</p> <p>図 7.1-1 に示したとおり、大学自己点検・評価委員会の下部組織として、医学部、大学院の 2 つの自己点検委員会があり、さらに医学部自己点検委員会の部会としてカリキュラム評価部会がある。医学部自己点検委員会には、常置委員会委員長をはじめ、本学の教育にかかわる主要な部署の長、医学教育研究分野の教員が構成者となっている。さらに医学部自己点検委員会の下部組織としてカリキュラム評価部会があり、これには外部医育機関の医学教育専門家として同県にある北里大学医学部の医学教育研究分野の准教授、地域の代表としてカソリック系ボランティア団体ランパス会の代表、学生の代表が参加している。</p>
今後の計画
<p>大学内部質保証の仕組みは 2022(令和 4)年に見直しを行い、新たに再構築したものであり、当面はこの方針を継続していく。</p>
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

7.4 教育の関係者の関与
基本的水準:適合
改善のための助言
・カリキュラム評価に関与する委員会に学生が1名のみ参加しているが、実質的な議論に参加するために、より多くの学生の参加を促すべきである。
改善状況
<p>カリキュラム委員会にカリキュラム学生委員を参加させ、意見交換を行うようにした(7.1 参照)。カリキュラム学生委員は各学年4名ずつで学生間の互選により選出され、毎月1回定期的に開催されるカリキュラム委員会に参加し、意見交換を行っている。</p> <p>7.3 に記載のとおり卒業生アンケートを実施し、アンケート項目にカリキュラムに関する事項を盛り込んだ。今年度の結果は、ディプロマ・ポリシーを達成するのに医学部教育として十分なカリキュラムでしたか?という質問に対しては、5 点満点で 3.83、6 年間のカリキュラムの満足度については 3.3 というやや低い値であった、</p>
今後の計画
<p>カリキュラム学生委員の参加について、今後も継続していく。</p> <p>卒業生に対するアンケート調査は 2022(令和 4)年度から始めたこと、回収率が約 30%と低いことから、今後もこのアンケートを継続しデータを集積していく。</p>
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準:部分的適合
特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
<p>大学全体としてSDGsに取り組むために、聖マリアンナ医科大学法人内にSDGs部会が発足した(資料7-12)。この部会における議論の中で、SDGsに対する学生教育も必要との意見が出された。これを受けて、医学教育研究分野で検討した結果、2023(令和5)年度より総合教育科目のコース内で、SDGsに関する教育(ESD:Education for Sustainable Development)を実施することとなった。</p>
今後の計画
SDGs部会に、この教育プログラムに対するフィードバックを求める予定である。
根拠資料
・資料7-12:SDGs部会議事要旨(2022(令和4)年度第8、9、10回)

7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準:部分的適合
改善のための示唆
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課程および教育プログラムの評価結果を広い範囲の教育の関係者が閲覧することを許可することが望まれる。</li> <li>・教学IRセンターを中心に、広い範囲の教育関係者から卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。</li> </ul>
改善状況
<p>大学基準協会の審査結果、および医学教育分野別評価の受審結果については、大学ホームページ上で公開できるような体制になっているので、広い範囲の教育の関係者の閲覧は可能である。これに加えカリキュラム委員会に、看護部の代表者、薬剤部の代表者、臨床研修センター長を新たに委員として追加した。カリキュラム委員会では、チーム医療、多職種協働の立場から、あるいはまた卒業生の研修状況との関連から、意見を聴取し問題点について議論している。</p> <p>臨床研修センター長が参加することにより、卒前、卒後の連携が図れるようにした。</p>
今後の計画
情報公開については、審査の経過に合わせて結果の公表を継続していく。

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

カリキュラム委員会に他の医療職者と、卒後の教育を担当する臨床研修センター長に加わってもらう方針は継続する。また卒業生の実績把握の方法として名刺プロジェクト(7.3 参照)については教学 IR センターを中心に同窓会の協力を得ながら推進していく。

根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 8.統轄および管理運営

8.1 統轄
基本的水準:部分的適合
特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

8.1 統轄
基本的水準:部分的適合
改善のための助言
<p>常置委員会と教学体制検討委員会の大学内における位置づけを明確に規定し、各委員会の役割と責任を明らかにすべきである。特に学長のリーダーシップのもと、入試委員会の責務と権限を明確にし、入試に関わる統轄体制を整備すべきである。</p>
改善状況
<p>2022(令和4)年度第9回主任教授会(2023(令和5)年1月18日開催)において、内部質保証(PDCA)サイクルのイメージ図を改訂し、常置委員会と教学体制検討委員会の大学内における位置づけを明確化した。医学部では、主に常置委員会が Act、Plan、および Do を担っているが、それぞれの過程の事項は、毎月開催の教学体制検討委員会に常置委員会委員長から報告され、都度、審議・承認を経て遂行され、さらに主任教授会で報告あるいは審議される。全体的な Check 機能は医学部自己点検委員会および、その上部委員会である大学自己点検・評価委員会が担っている。大学自己点検・評価委員会は複数の外部委員を含み、医学部自己点検委員会(および大学院自己点検委員会)からの報告を受け、大学としての自己点検・評価を総括している(資料7-2)。</p> <p>入試委員会は常置委員会のひとつであり、毎月開催される入試委員会の決定事項は、教学体制検討委員会、主任教授会において審議のうえ承認されており、主任教授会の議長でもある学長が最終的に入試を統括する立場にある。</p>
今後の計画
<p>改善状況に記したとおり、内部質保証(PDCA)サイクルのイメージ図を改訂したところであり、粛々と運用している。しかし、問題点があれば随時見直しを図り、より良い体制を整備する。</p>
根拠資料
資料7-2:本学における内部質保証(PDCA)サイクルのイメージ図

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

8.2 教学のリーダーシップ
基本的水準:部分的適合
特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

8.2 教学のリーダーシップ
基本的水準:部分的適合
改善のための助言
・学長と医学部長の責任体制を明確にすべきである。
改善状況
<p>入学者選抜、教育カリキュラム、学生指導、教員の採用・昇進、および研究に関する重要事項の審議は、常置委員会である入試委員会、カリキュラム委員会、学年担当委員会、教員組織委員会、および研究振興委員会がそれぞれ担っており、医学部長がこれら常置委員会を管掌すると学則で定められている。また、医学部長は学務担当執行役員であり、常置委員会の庶務を司る入試課や教育課など教学部各課も医学部長の業務指示の下で日常業務を遂行しており、教学業務の執行については医学部長が責任を負う体制が確立されている。</p> <p>一方、運営方針や各種施策などは、学長が委員長で、全常置委員会委員長が委員となっている教学体制検討委員会の審議・承認を経て、さらに主任教授会で審議を経て学長が決定する。この点から大学運営における学長のガバナンスは十分に発揮されていると考える(資料 8-1、8-2、8-3)。</p> <p>以上のとおり、意思決定については学長が、執行については医学部長が、それぞれ責任を担っており、学長のガバナンスの下、適切かつ円滑に業務遂行が実現する体制が確立されていると考える。ただし、「8.2 教学のリーダーシップ」と関連して、教学におけるリーダーシップの定期的評価が十分とはいえない。さらなる体制強化のために、評価体制を構築することを模索する。</p>
今後の計画
「8.2 教学のリーダーシップ」と関連するが、教学におけるリーダーシップの定期的評価が

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

十分とはいえない。さらなる体制強化のために、評価制度を構築することを模索する。
根拠資料
資料 8-1:学則 第 39 条、第 40 条 資料 8-2:常置委員会規程 資料 8-3:教学体制検討委員会規程

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

8.2 教学のリーダーシップ
質的向上のための水準:部分的適合
特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

8.2 教学のリーダーシップ
質的向上のための水準:部分的適合
改善のための示唆
・教学におけるリーダーシップの評価を、医学部の使命と学修成果に照合して、定期的に行うことが望まれる。
改善状況
<p>教学におけるリーダーである学長や医学部長の任期は 3 年間である。今回、それぞれ再任したことから、前回の任期中の成果等が評価され、今後のさらなる発展が期待された結果といえる(資料 8-4、8-5)。</p> <p>しかし、今後、さらなる体制強化を図るためには、定期的な評価が必要と考えられ、評価体制を構築することを模索する。</p>
今後の計画
<p>教学におけるリーダーシップのさらなる体制強化のために、評価制度を設けることを模索する。</p>
根拠資料
<p>資料 8-4:教職員勤務規則 第3条、第4条</p> <p>資料 8-5:学長選考規程</p>



# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

8.3 教育予算と資源配分
基本的水準:適合
特記すべき良い点(特色)
・ 教学関連予算が十分に確保されている。
特色を発展させるため活動状況
新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、本学附属病院等における通常診療が制限され、財政的な不安要素が依然として残っている状況である。しかし、教学関連予算は前年度と同額を確保することができている(資料 8-6)。
今後の計画
2022(令和 4)年度は、研究のさらなる推進を目的に、外部資金を獲得し難い基礎系講座に対する配分額を増額した。今後も効果的な予算配分を行う。
根拠資料
資料 8-6:2022(令和 4)年度 教学関係予算

8.3 教育予算と資源配分
基本的水準:適合
改善のための助言
なし
改善状況
今後の計画
根拠資料

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

8.4事務と運営
基本的水準:部分的適合
特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

8.4事務と運営
基本的水準:部分的適合
改善のための助言
学生の募集および入学試験に関連する事務組織をさらに充実すべきである。
改善状況
2022(令和 4)年 4 月に入学者選抜に係る専門部署として「入試課」を設置した。主な業務は次のとおりである。 (1)学生の募集及び入学者選抜に関すること。 (2)入学者選抜の広報に関すること。 (3)入学者選抜の成績に関すること。 (4)試験問題の管理、記録に関すること。 (5)関係諸委員会の庶務に関すること。 (6)入学者選抜にかかる IR に関すること。 (7)入学者選抜にかかる自己点検に関すること。
今後の計画
2022(令和 4)年 4 月 1 日付の入試課の職員数は、専任者 4 名、兼任者7名である。さらに充実させるために専任者の増員を検討する。
根拠資料
資料 4-5:事務組織規程 資料 8-7:人員表(2022(令和 4)年 4 月現在)

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

8.5 保健医療部門との交流
基本的水準:部分的適合
特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

8.5 保健医療部門との交流
基本的水準:部分的適合
改善のための助言
・臨床実習に関連して地域医療機関や保健医療部門との体系的な協力関係を確立すべきである。
改善状況
<p>第 6 学年臨床実習において、地域医療機関での診療を通じて、在宅医療を含めた地域医療・高齢者医療の実際を理解する地域医療の現状を把握する目的で、地域臨床実習を実施している。また、同実習協力医院の施設長には臨床教授の称号を付与し、定期的に学生実習に関する意見交換の場を設けており、体系的な協力関係を構築している(資料 8-8)。協力医療機関の数は 61 施設(資料 8-9)、本学臨床教授の数は 55 名と徐々に増加している(資料 8-10)。</p> <p>保健医療部門との連携に関しては、臨床実習直前の第 4 学年次に本学と昭和薬科大学薬学部、東京純心大学看護学部の 3 大学で、医療における多職種連携協働およびチーム医療の意義を学ぶことを目的とした「多職種連携セミナー」を共同開催している。</p>
今後の計画
<p>臨床実習における地域医療機関との連携については、今後も継続的に意見交換を行い、内容をブラッシュアップしながら、実施する予定である。</p> <p>また、今後は多職種連携セミナーの連携大学のさらなる拡充により、保健医療部門との協力関係強化に努める。</p>
根拠資料
<p>資料 8-8:学外臨床実習施設打合せ記録                  資料 8-9:2022(令和 4)年度臨床実習協力機関                  資料 8-10:2022(令和 4)年度臨床教授一覧</p>

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## 9.継続的改良

基本的水準:部分的適合
特記すべき良い点(特色)
なし
特色を発展させるため活動状況
今後の計画
根拠資料

基本的水準:部分的適合
改善のための助言
<p>(1)学長・医学部長・教授会は、教育プログラムの教育課程、構造、内容、学修成果および評価において、責務を明確化し、教育プログラムの継続的改良に責任を持つべきである。</p> <p>(2)教育プログラムを確実に評価する仕組みを構築し、継続的改良を進めるべきである。</p> <p>(3)2019(令和元)年度と2020(令和2)年度に大学基準協会から「不適合」と判定された課題に対して早急に解決し、内部質保証を確実にを行い、継続的改良を進めるべきである。</p>
改善状況
<p>(1)2022(令和4)年度第9回主任教授会(2023(令和5)年1月18日開催)において、内部質保証(PDCA)サイクルのイメージ図を改訂し、常置委員会と教学体制検討委員会の大学内における位置づけを明確化した。学長は主任教授会および教学体制検討委員会の議長であり、教育プログラムの継続的改良の最終責任者である。また、教育プログラムの継続的改良を担うカリキュラム委員会をはじめとする常置委員会は、医学部長が管掌しており、教育プログラムの教育課程、構造、内容、学修成果および評価の責務は明確化されている(資料7-2)。</p> <p>(2)</p> <p>1. 本学のPDCAサイクルを見直し、新たな内部質保証の体制を構築した。</p> <p>本学では、2017(平成29)年度に自己点検・評価運営委員会の下に医学教育評価・検証委員会を発足し、その下部組織としてカリキュラム委員会から独立したカリキュラム評価委員会を組織した。これにより、カリキュラムの企画・立案から策定までを担うカリキュラム委員会とカリキュラムの評価・検証を行うカリキュラム評価委員会との機能分化を行った。</p>

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

また、2020(令和2)年には教学関係のデータの収集、分析を行うための教学IRセンターを発足させた。

これにより、カリキュラム委員会が企画・立案・実行・改善、教学IRセンターがデータの収集及び基礎データの分析作業、カリキュラム評価委員会、医学教育評価・検証委員会、自己点検・評価運営委員会が評価・検証を担う体制を構築した。

しかしながら、2021(令和3)年に受審した医学教育分野別評価において、各委員会が独自に活動しており、系統的に評価できていない旨の指摘を受けた。これを受け、「自己点検・評価運営委員会」を「大学自己点検・評価委員会」と改称し、「医学教育評価・検証委員会」を「医学部自己点検委員会」へ統合、「カリキュラム評価委員会」を「医学部自己点検委員会」の部会として評価体制を再構築した(図7.1-1参照)。また、本学における内部質保証(PDCA)サイクルのイメージは以下のとおりである(図7.1-2)。

このシステムに基づき、2022(令和4)年度は教育プログラムの評価のためにカリキュラム評価部会を開催し(資料7-3)、結果を上位の委員会である医学部自己点検委員会に報告した(資料7-4)。

2. アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの3ポリシーに加え、新たにアセスメント・ポリシーを作成した(資料7-5、7-6)。

これにより評価に用いるモニタ項目と教学IRセンターで収集するデータが明確となった。

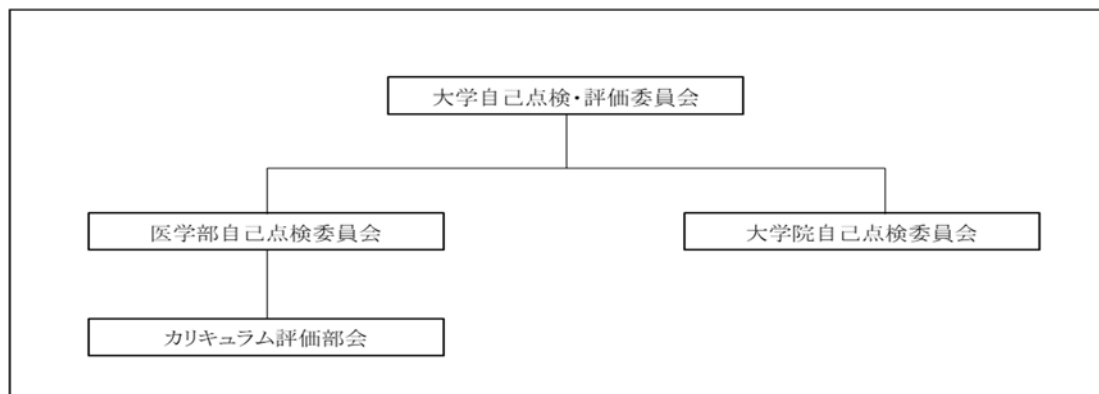


図7.1-1 自己点検組織図

医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

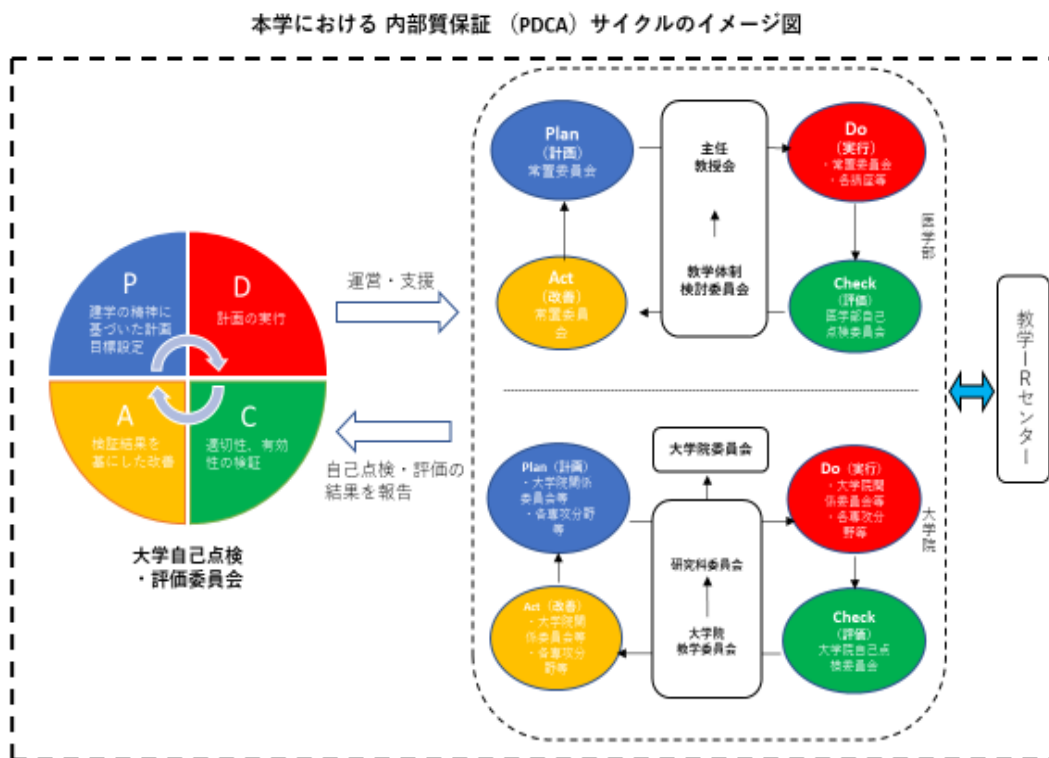


図7.1-2 内部質保証システム図

(以上7.1参照)

(3)

[1]財政基盤の安定化について

法人全体の財務指標は、盤石な財務基盤とは言い難い状況にあるものの、前回の認証評価受審時と直近の2021(令和3)年度を比較すると、着実に改善している(資料9-1)。

	翌年度繰越収支差額 支出超過額(A)	事業活動収入(B)	A/B
2013(H25)年度	61,832 百万円	67,810 百万円	91.2%
2012(R3)年度	50,387 百万円	90,317 百万円	55.8%

	金融資産額(C)	要積立額(D)	C/D
2013(H25)年度	8,923 百万円	65,678 百万円	13.6%
2012(R3)年度	22,286 百万円	79,197 百万円	28.1%

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## [2]学生の受け入れについて

2019(平成31)年度入学者選抜から現在に至るまで、次のとおり改善を図ってきた。

- ①入学者選抜の実施方法の詳細を受験者に周知するため、2020(令和2)年度以降の入学者選抜要項の大幅な改訂を行った。入学者選抜要項に第1次試験、第2次試験の配点に加え、選抜方法の項に以下の記載を加えた(資料9-2)。
  - 1)小論文試験や面接試験の目的。
  - 2)出願書類(調査書(高等学校卒業後5年以上経過し、調査書が発行されない受験生は活動実績報告書)・志願票)を面接時の参考とし面接評価に加味すること。
  - 3)小論文および面接等において、多面的・総合的に判定の上、医師としての適性に問題があると判断された場合には、各試験の成績の如何に関わらず不合格となることがあること。
- ②入学者選抜実施後に、過去3年間に亘る入試結果に関する情報を速やかにホームページに掲載し、情報の公開に努めた(資料9-3)。
- ③2021(令和3)年度入学者選抜より、自己点検・評価運営委員会(2022(令和4)年4月1日付で「大学自己点検・評価委員会」へ改称)の下部組織として、外部委員を委員長とする入学者選抜検証委員会を設置し(資料4-2)、入学者選抜が公平公正に行われているか検証を行ない、報告書を大学ホームページにおいて公開している(資料4-6)。
- ④2020(令和2)年度監事監査報告書において提言された、「入学者選抜に係る専門事務部門の設立」について検討を行い、担当部署として、2022(令和4)年4月より教学部に新たに「入試課」を設置した(資料4-5)。
- ⑤入試委員会業務の透明性を一層高めるよう、2021(令和3)年4月に入試委員会内規を制定した。当内規をさらに見直し、2022(令和4)年4月1日付で、入試委員会内規第11条第4項に「合否判定会議で用いる合否判定資料は、当該入学者選抜において実施された試験科目の成績のみに基づき公正に作成されていることが、監事もしくは顧問弁護士またはそれに準ずる立場の者によって予め確認されたものでなければならない」と規定し、事前に合否判定資料が公正・公平に作成されていることを判定前に確認する旨の文言を追加した(資料4-4)。

## [3]管理運営について

- (1)「聖マリアンナ医科大学入試委員会内規(資料8-17)」を制定し、入試課を設けるなどの改善を図った(資料8-8)。
- (2)面接試験における評価の平準化を目的として、2022(令和4)年度入学者選抜の面接試験を担当する教員を対象に「入学者選抜にかかる面接FD」を開催した(資料4-3)。

# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

## [4]内部質保証について

大学自己点検・評価委員会の構成員に保健や医療に関わる行政に関する知見を有する学外者を加え、同委員会の下部組織として、入学者選抜検証委員会を設置するなど内部質保証システムの体制見直しを行った(資料9-4、4-6)。

また、本学の理念・目的の実現に向けて、継続的に改善・改革を進めるために内部質保証の方針を定めた(資料9-5)。

## 今後の計画

(1)現行の体制で運用し、問題点がある場合は随時見直しを図る。

(2) 上記で示した内部質保証の体制、即ち①3つのポリシーに沿って構築された教育プログラムを、②アセスメント・ポリシーに沿って教学IRセンターが収集・解析したデータに基づき、カリキュラム評価部会が評価し、③これを上位の委員会である医学部自己点検委員会、さらには大学自己点検員会に上程し、④教育プログラムの改善につなげる、という体制を今後も継続していく。

(3)

## [1]財政基盤の安定化について

事業計画と財務計画に基づく適正な予算編成、内部統制機能に担保された予算執行管理、さらに客観的な視点による予算執行状況の検証と効果測定により、継続的な財務基盤の強化を図る。

## [2]学生の受け入れについて

文部科学省から毎年発出される「大学入学者選抜実施要領」及び2018(平成30)年11月に全国医学部長病院長会議から公表された「医学部医学科入学試験の規範」を遵守し、継続的に入学者選抜制度の改善を図り、適正かつ公正な入学者選抜に努める。

## [3]管理運営について

管理運営体制を整備しガバナンスの強化に努める。また、継続的にFDを実施する。

## [4]内部質保証について

内部質保証の方針に則り、大学自己点検・評価委員会を中心に内部質保証システムを一層機能させていく。

## 根拠資料

資料7-2: 本学における内部質保証(PDCA)サイクルのイメージ図

資料7-3: カリキュラム評価部会議事録(2023(令和5)年2月8日)



# 医学教育分野別評価 聖マリアンナ医科大学 年次報告書

2023 年度

評価受審年度 2021(令和3)年

資料7-4: 医学部自己点検員委員会議事録(2023(令和5)年3月8日)

資料7-5: アセスメント・ポリシー

資料7-6: 2022(令和4)年度第5回主任教授会議事録(抜粋)

資料9-1: 財務指標の推移(収益事業を含む法人全体、6ヵ年)

資料9-2: 入学者選抜要項

資料9-3: 2022(令和4)年度入学試験結果

資料4-2: 入学者選抜検証委員会委員一覧

資料4-6: 2022(令和4)年度入学者選抜に関する検証報告書

資料4-5: 事務組織規程

資料4-4: 入試委員会内規

資料4-3: 2022(令和4)年度入学者選抜にかかる面接FD

資料9-4: 2021(令和3)年度入学者選抜に関する検証報告書

資料9-5: 本学における内部質保証に関する基本方針について